

# 令和5年度 事業報告

社会福祉法人 慶光会

## 【目次】

法人概要	P 1
法人全事業所共通の取り組み	P 4
蒜山慶光園	P 5
グループハウスかわかみ	P 9
デイセンターひるぜん	P 12
ワークスひるぜん	P 15
グループハウスひるぜん	P 18
ワークスクらよし	P 21
川上児童クラブ	P 24
デイセンターまにわ	P 26
グループハウスおちあい	P 29
ワークプレイスマにわ	P 31
真庭地域生活支援センター	P 34
法人本部：理事長室・事業所統括推進室・労働開発室	P 37
部会：就労調整部会・実践検討部会・虐待防止部会	P 39
事務局	P 41
公益事業：福祉有償運送	P 42

【法人概要】

1. 法人基本情報（令和6年3月31日時点）

本部所在地	岡山県真庭市蒜山上福田1201番地8
理事長	柴田 智宏
電話	0867-66-4069
FAX	0867-66-4062
代表メールアドレス	info@keikoukai.net
ホームページ	http://www.keikoukai.net

2. 主な事業（令和6年3月31日時点）

事業所名	事業種別	定員	利用者数 (契約)	稼働率 (定員比)	管理者名
法人事務局					
蒜山慶光園	施設入所支援	30	30	96.2%	丸山 潤
	生活介護	40	38	86.0%	
	短期入所	1			
グループハウスかわかみ	共同生活援助（4ホーム）	30	29	84.8%	立岡 一夫
デイセンターひるぜん	生活介護	20	19	91.4%	丸山 朝美
ワークスひるぜん	就労継続支援B型	20	24	83.9%	東山 美子
グループハウスひるぜん	共同生活援助（7ホーム）	22	21	87.2%	北野 正樹
ワークスクらよし	就労継続支援B型	40	45	69.3%	笠原 史郎
	・ワークスクらよし	30	33		
	・（従）ワークスふくよし	10	12		
川上児童クラブ	放課後児童健全育成事業	30	30		丸山 朝美
デイセンターまにわ	生活介護	20	18	68.1%	守屋 史一
	就労継続支援A型	10	5	46.4%	
グループハウスおちあい	共同生活援助	4	4	86.0%	守屋 史一
ワークプレイスマにわ	就労継続支援B型	40	45	62.6%	守屋 史一
	・ワークプレイスマにわ	20	30		
	・（従）ワークプレイスつやま	20	15		
真庭地域生活支援センター	一般相談支援 特定相談支援 障害児相談支援				妹尾 裕子

\*（従）従たる事業所

### 3. 評議員及び役員

評議員（8人）	坂手 修三	瀬島 完司
	土井 秀人	中村 聡
	長谷川 秀子	二若 敦善
	法華 教善	山本 廣志
監事（2人）	伊藤 貴宏	長尾 伸二
理事（6人）	柴田 智宏	中津 世待
	野崎 英俊	東山 美子
	福本 親吾	前田 尚志

### 4. 評議員会

開催日	議題	評議員（出席者数／総数）
令和5年 6月17日	（1）令和4年度決算、監事監査報告 （2）定款の一部改正 （3）新役員の選任、役員報酬	6／8

### 5. 理事会

開催日	議題	理事 （出席者数／総数）	監事 （出席者数／総数）
令和5年 5月25日	（1）令和4年度事業報告、決算報告、 監事監査報告 （2）令和5年度夏季賞与 （3）新役員の選任	5／5	2／2
6月17日	（1）理事長の選任、役員報酬 （2）人事委員会、本部監査委員会の 構成員選任	6／6	2／2
9月22日	（1）給与規程の一部改正 （2）就業規則の一部改正 （3）第一次補正予算	6／6	1／2
10月28日	（1）日本財団助成事業に係る 令和5年度第二次補正予算 （2）入札に係る委員の選任	5／6	2／2

<p>令和6年 3月1日</p>	<p>(1) 令和6年度法人組織 (2) 令和6年度管理職の任免と       その他の重要な人事 (3) 令和6年度昇任、降格、正職登用 (4) 年度末賞与 (5) 給与規程の一部改正</p>	<p>5 / 6</p>	<p>2 / 2</p>
<p>3月25日</p>	<p>(1) 令和5年度第三次補正予算 (2) 令和6年度事業計画 (3) 令和6年度予算 (4) 運営規程の一部改正 (5) 苦情解決第三者委員の選任 (6) 本部監査委員の変更</p>	<p>4 / 6</p>	<p>2 / 2</p>

**6. 監事監査**

・令和5年5月15日

**7. 苦情解決第三者委員会**

・令和6年1月29日

## 【法人全事業所共通の取り組み】

### 1. リスクマネジメントの取り組み

#### (1) 虐待防止と人権擁護

- ・全職員を対象に「虐待防止セルフチェック」を行った。結果は管理会議で共有するとともに各事業所で自事業所の結果の共有と振り返りを行った。
- ・虐待防止部主催の虐待防止、身体拘束適正化研修を開催し、虐待防止や人権擁護について考える機会となった。

#### (2) 災害対策

- ・災害BCP（事業継続計画）を策定し、周知を行った。また、各事業所で火災・災害避難訓練を実施した。

#### (3) 感染症対応

- ・感染症対応BCP（事業継続計画）を策定し、周知を行った。感染症発生時には迅速な感染者対応を行い、感染拡大防止に努めた。

#### (4) 救急蘇生法講習

- ・緊急時の迅速な対応につながるよう各事業所で消防署員等へ講師を依頼し、救急蘇生法講習会を開催した。

#### (5) その他

- ・ヒヤリ・ハット、事故については各事業所で内容の共有と改善策の検討を行い、決められた改善策の実施を徹底した。また、ヒヤリ・ハット、事故報告の書式についても統一するとともに、他事業所の事故報告も全事業所で共有し自事業所での事故防止につなげた。

### 2. 職員教育

- ・10月には実践発表会を開催し、取り組んだ実践を全職員で共有することで実践の質の向上につなげた。
- ・法人内の20歳代～30歳代を中心とした職員を対象に、外部講師をお招きして「やりがいを実感して働くためにできること、取り組めること」というテーマでグループワーク（ワールドカフェ）を開催し、今感じていることや悩みを同年代で共有し、やりがいについて考えるきっかけとなった。
- ・法人外研修参加後は、各事業所会議の場等で研修内容の報告を行い知識の共有を行った。

### 3. その他

- ・虐待事例報告、身体拘束事例報告なし。
- ・ハラスメント事例報告なし。

# 蒜山慶光園

## 施設入所支援・生活介護・短期入所

### 第1. 利用者概要（令和6年3月31日時点）

#### 1. 区分・男女別 平均障害支援区分：5.4（小数点第2位切り捨て）

(人)	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	非該当	計
男性	12	5	2	0	0	0	0	19
女性	6	2	3	0	0	0	0	11
計	18	7	5	0	0	0	0	30

#### 2. 年齢・男女別平均年齢：51.1歳（最年少：29歳、最高齢：89歳）（小数点第2位切り捨て）

(人)	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
男性	1	7	3	4	2	1	1	19
女性	0	1	4	0	3	2	1	11
計	1	8	7	4	5	3	2	30

### 3. 入退所の状況

(人)	新規利用	退所	退所理由
施設入所	2	2	入院（1）、肺炎により死亡（1）
生活介護	4	2	入院（1）、肺炎により死亡（1）
付属事業（短期入所）	2		

### 第2. 作業内容

- ・生活介護（れんげ班・ほっこり）：小動物のトイレ砂の袋詰め

### 第3. 職員配置（令和6年3月31日時点）

(人)	施設長 管理者	サービス 管理責任者	看護師	生活支援員	管理栄養士	計
常勤換算	1	1 (管理者兼務)	2.5	19.1	1	23.6 (管理者兼務を除く)

#### 第4. 運営方針・重点課題への取り組み

##### 1. 障害のある方が、安心・安全に暮らせる環境作りに努める

- ・利用者の特性やニーズに配慮した上で1階・2階を含めた全体的な居室変更を行った。また、長年、慶光園に入所されていた方の健康上の理由での退所に伴い、新規利用を受け入れた。受け入れにはしっかりと状況把握をしたうえで居室決定を行い、安全にも配慮した環境を提供した。生活部分だけでなく日中活動の環境の見直しも行い、高齢の利用者は日中でもベッドに横になって休める個室を作ることで無理なく活動に参加できる環境を整備した。

##### 2. 利用者の方が日々の生活の中でも様々な経験をし、楽しみを持つことができるような生活の場作りを行う

- ・全利用者へ一人ひとりのニーズに合わせた外出や活動等を一人1回以上実施した。個別に合わせた楽しみを提供することにより職員もじっくりと利用者に向き合うことができ、集団での活動では気づきにくい新たな発見もできた。日中活動では新たにYouTubeを取り入れ、体操やダンス、カラオケや映画鑑賞、BGM等に活用し、より日中活動の幅が広がり充実にもつながった。

##### 3. 一人ひとりに向き合った支援を職員みんなで検討・共有することで、みんなで支援を作り上げる

- ・ケース会議で利用者一人ひとりの特性を共通理解し、その共通理解のもと班会議にて個別支援を検討し、支援指示書にて共有を行った。支援指示書は確認後に必ずサインをすることを徹底し、兼務職員にも必ず目を通してもらうことで利用者実践に係る職員全員で統一した実践につなげることができた。加齢による変化から医療が必要となる利用者も増え、看護師を中心に医療と現場職員との連携を図った。特に医療との連携が必要な利用者については、全員が同じ視点を持って観察できるよう日々の観察について看護師主催の学習会を開催し共通理解につなげた。

##### 4. 上記を実現するために職員の専門性と人権倫理観の向上に努める

- ・支援の専門性を高めるため、外部、内部研修に積極的に参加した。また、毎月の支援員会議の中で、人権・医療・介護技術等のテーマを決め、事業所内の勉強会や研修にも積極的に取り組んだ。

#### 第5. リスクマネジメントの取り組み

(件)	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット報告
件数	1	22	33
県への報告件数	0	2	

##### 1. 苦情（1件）

(1) 県への報告事例：なし

(2) その他の事例

【利用者の物品購入について】

- ・保護者より、「購入物品一覧表に14万円も購入していると記載があるが、どういうことか。本当に本人の物を買っているのか不信感しかない。必要な物以上の物を買っているのであれば弁償をしてほしい。自分たちでも買っても1・2枚なのに、こんなに買うのはおかしいのではないか。使えるものはちゃんと使ってほしい。」という連絡があった。担当職員は、本人



の楽しみやより良い生活環境を整えるために身の回りの物を一新させたいと考え、肌着・寝具・タオル等を購入したが一度に購入したため、単価が1万円を超える物はなかったが総額が約14万円となってしまった。事前に保護者には、必要な物は買ってもよいと確認できていたため、担当職員は購入することに対して問題はないという認識であった。

(対応と反応)

- ・保護者へは管理者より、本人に必要な物を購入し使用していること、本人も喜んでおられること、担当職員の思いをお伝えしたが、納得はされなかった。この件に関してCR委員会で報告・対応を検討し、法人として利用者の物品購入の流れが整備できていなかったことも要因の一つであることから、利用者に対して全額法人で弁償することとなった。法人で全額弁償することを保護者へ伝えたと、納得された。今後、法人内で統一したルールのもとに利用者の物品購入ができるよう、マニュアル化することとなった。

## 2. 事故報告

(1) 特徴と改善策

① 県への報告事例の特記事項

【窓ガラスへの頭突きによる怪我】

- ・生活介護の活動中、突然、窓ガラスに頭突きしたため窓ガラスが割れ、左額、頭頂部、左第5指に裂創を受傷した。直ちに医療機関を受診し、左額、頭頂部の縫合処置を受けた。  
⇒ (改善策) 利用者の様子を見ながら、落ち着かないことがあれば居室等で過ごしてもらい職員が付き添う等の対応を行うことを再度、周知・徹底した。
- ・その他、転倒による膝の打撲の報告であった。

② その他の事故の特徴

- ・上半期の報告は落下薬の報告が大半であった。  
⇒ (改善策) 飲み込みまで確実に確認することを徹底した。また服薬方法の統一も行い、開口が少ないなど服薬が難しい利用者へは確実に服薬ができるよう、オブラートや服薬ゼリーを導入した。
- ・転倒の報告も多く、靴の踵を踏んだまま歩いていたことが原因の事例や、園外でつまずいて転倒した事例があった。  
⇒ (改善策) 少しでも転倒リスクを減らすため、靴をきちんと履いているか確認するよう周知・徹底した。また、転倒リスクの高い利用者には必ず付き添うことを徹底した。

## 3. ヒヤリ・ハットの特徴

- ・服薬に関するヒヤリ・ハットが多かったが、服薬後のダブルチェック時に薬が残っているのを発見しすぐに服薬ができたなど、服薬手順を遵守することで抜薬を回避することができた。

## 4. その他の取り組み

(1) 毎月の支援員会議で、人権委員会の提起に基づくミニ学習や振り返り論議を行う

- ・毎月の班会議にて、人権・虐待・身体拘束等の勉強会を開催し、職員間で意見交換を行った。

(2) 専門職による講習の実施（感染症対策、健康観察の基本、服薬介助、身体介助など）

- ・班会議の中で、看護師が講師となり緊急時対応・服薬について、介護に従事した経験のある職員が講師となり介護技術などの勉強会を行った。また、その知識や技術が現場でも生かされるよう、各専門職から生活支援員へ実践形式での根拠も含めた伝達・指導を個別に行った。

## 第6. 職員研修

	研修テーマ	参加者（人数）
外部研修	コーチング研修	1
	強度行動障害支援者養成研修	1
	サービス管理責任者実践研修	2
	障害者の福祉的就労と日中活動サービスの支援のあり方について	2
	全国知的障害福祉関係職員研究大会	1
	岡山県障害者権利擁護セミナー	2
	岡山県知的障害福祉協会「人権侵害・虐待研修」	1
	岡山県障害者虐待防止・権利擁護研修	1
事業所内研修	緊急時対応について	18
	嚥下障害、口腔ケアについて	17
事業所内研修	呼称について	16
	身体拘束、虐待について	17
	人権についての（DVD鑑賞）	26
	介護技術について	16

# グループハウスかわかみ

## 共同生活援助

### 第1. 利用者概要（令和6年3月31日時点）

#### 1. 区分・男女別 平均障害支援区分：3.7（小数点第2位切り捨て）

（人）	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	非該当	計
男性	1	2	4	5	1	0	0	13
女性	1	1	10	2	2	0	0	16
計	2	3	14	7	3	0	0	29

#### 2. 年齢・男女別平均年齢：60.0歳（最年少：19歳、最高齢：94歳）（小数点第2位切り捨て）

（人）	19～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
男性	1	2	1	2	4	1	2	13
女性	2	0	0	3	6	3	2	16
計	3	2	1	5	10	4	4	29

#### 3. 入退所の状況

（人）	新規利用	退所	退所理由
共同生活援助	2	1	死亡（老衰）

### 第2. 職員配置（令和6年3月31日時点）

（人）	施設長 管理者	サービス 管理責任者	看護師	生活支援員	世話人	計
常勤換算	1	1	0.1	3.4	7.2	12.7

### 第3. 運営方針・重点課題への取り組み

1. 高齢の利用者が穏やかな生活を送りながらも、それぞれの楽しみや、やりたい事の実現に向けた生活となるような実践を行う
  - ・94歳の高齢利用者がコロナ禍以前から若い頃に暮らしていた場所に行きたいと希望されており、職員と共に思い出の地を巡り、懐かしい方々に再会する1泊2日の旅行を実現することができた。その他、休日には季節感を感じられるような行事を開催し、利用者の方に出し物をしていただくなど利用者主体の余暇活動に取り組むことができた。
2. 利用者が直面している課題解決はもちろん、楽しみを広げられるようなさらに一歩進んだ支援につなげる
  - ・毎月開催しているケース会議や支援員会議で利用者の様子などを共有し、課題等について利用者の思いも汲み取りながら論議を行った。論議をしたことを実践し、利用者と共に振り返りながら支援の組み立てを行った。
3. 「愛さつ」と細目なコミュニケーションを心掛け、業務を有効かつ円滑に進めるための雰囲気作りに取り組む
  - ・ご家族や法人外の方に対してだけでなく、職員間でも挨拶や情報共有など細目にコミュニケーションを図るように努めた。そのことにより、お互いに進捗状況の把握ができ職員間の協力体制が取りやすくなったことで、業務を円滑に進めることができた。

### 第4. リスクマネジメントの取り組み

(件)	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット
件数	0	18	19
県への報告件数	0	2	

1. 苦情：なし

#### 2. 事故報告

(1) 特徴と改善策

① 県への報告事例の特記事項

【身体介助中の怪我（骨折）】

- ・車いすへ移乗介助後浅く腰掛けていたため、利用者の後方から両脇を抱えて座り直しを行った。その際、利用者の両上肢が勢いよく上がり右上肢が近くにあった空気清浄機にぶつかってしまった。その後、右前腕部に皮下出血があり受診すると右橈骨骨折の診断があり手術となった。

⇒（改善策）ベッド周辺の動線を確保するための環境整備と、支援員全員にもう一度介助技術の伝達と介助する際の観察すべきポイントについて再確認し、再発防止を徹底した。

- ・その他、転倒により上腕骨骨折の報告であった。

## ②その他の事故の特徴

- ・約1/3が落下薬の報告であった。

⇒(改善策)服薬手順の再確認を行い、特に飲み込みまでしっかり確認することを徹底した。

また、開口が少ない、口腔内の確認が難しいなど服薬介助が難しい利用者が確実に服薬できる与薬方法の検討を行った。

## 3. ヒヤリ・ハットの特徴

- ・服薬に関する報告(手指の震えがあり落としてしまった、与薬し忘れなど)が最も多かった。抜薬に関しては、複数職員の確認により事故を回避することができた。このように、服薬手順を遵守すれば事故を回避することができることを職員間で再確認した。その他、ふらついて転びそうになった等、転倒につながるような報告が挙がっていた。身体機能などの様子を確認しながら、できる限り転倒のリスクを減らせるよう環境整備や福祉用具の導入を行った。

## 第5. 職員研修

	研修テーマ	参加者(人数)
外部研修	岡山県自閉症協会セミナー	1
	中国地区障害者支援施設部会研修会	1
	岡山県障害者虐待防止・権利擁護研修	1

# デイセンターひるぜん

## 生活介護・日中一時支援

### 第1. 利用者概要（令和6年3月31日時点）

#### 1. 区分・男女別 平均障害支援区分：4.4（小数点第2位切り捨て）

（人）	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	非該当	計
男性	2	5	5	1	1	0	0	14
女性	0	3	1	1	0	0	0	5
計	2	8	6	2	1	0	0	19

#### 2. 年齢・男女別平均年齢：39.8歳（最年少：22歳、最高齢：65歳）（小数点第2位切り捨て）

（人）	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
男性	2	6	2	2	2	0	0	14
女性	1	2	2	0	0	0	0	5
計	3	8	4	2	2	0	0	19

#### 3. 入退所の状況

（人）	新規利用	退所	退所理由
生活介護	0	1	ワークスひるぜんへ移行

### 第2. 作業内容

- ・ペットフードの袋詰め

### 第3. 職員配置（令和6年3月31日時点）

（人）	施設長 管理者	サービス 管理責任者	看護師	生活支援員	計
常勤換算	1	1 (管理者兼務)	0.2	3.8	5.0 (管理者兼務を除く)

#### 第4. 運営方針・重点課題への取り組み

##### 1. 利用者の特性に応じた支援を検討していく機会を定期的に設け、よりよい実践につなげる

- ・事業所会議開催時に、ケースレポートを基にしたケース会議を開催した。この機会に初めてケースレポートを作成した職員も多数あり、作成手順や作成にあたって大切にすべき視点について伝えることで基本を学ぶ良い機会となった。その他ケース会議では、利用者の特性をとらえながら今後の課題・実践の方針を明確にし、職員間で共通認識することで統一した実践につなげることができた。

##### 2. 作業を主とした活動を中心に利用者が「楽しい」「心地良い」と思える事業所作りを行う

- ・継続して同じ作業に取り組むことができる環境にあるため、利用者一人ひとりの作業工程が明確になることで作業に対する不安も軽減し、安定して作業に取り組むことができている。そうした中で作業を活動の軸に据えながらも毎週金曜日を余暇活動の日とし、地元のスーパーへの買い物と季節の創作活動に取り組んだ。創作活動は事前にテーマを掲示することで楽しみ感が増し、完成した物は事業所玄関に展示することで利用者が達成感や満足感を感じられる場面を増やすことができた。

##### 3. 職員が支援面だけでなく環境面等でも様々な気付きができる雰囲気作りを行う

- ・掃除チェック表を作成し活用した。気付いた時や隙間時間を見つけて掃除をし、掃除した場所・日付、サインを記載することで、いつ、誰が、どこを掃除したのかが分かり、掃除が出来ていないところへ目を向けられるようになった。また、定期的に整理整頓を行うことで、整理整頓されていることが当たり前という認識の変化にもつながった。

#### 第5. リスクマネジメントの取り組み

(件)	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット報告
件数	0	3	21
県への報告件数	0	0	

##### 1. 苦情：なし

##### 2. 事故報告

###### (1) 特徴と改善策

- ①県への報告事例：なし
- ②その他の事故の特徴

- ・3件中2件が転倒の報告であった。

⇒(改善策) もともとバランスを崩しやすい方であったが、それに加え歩行の癖から靴の変形が強くなっていたことや作業時の動線に障害(利用者が居た)があった状況が重なり転倒事故が発生した。生活事業所と連携・共有し、靴の買い替えや歩行時の付き添いの検討を行い、安全に過ごせるような環境整備を行った。

### 3. ヒヤリ・ハットの特徴

- ・不調やこだわり等、不安定な状況が続いている利用者に関連する報告が多かった。現場実践だけでは対応が難しく、他事業所と情報共有・連携しながら医療にも介入してもらい、専門機関からの助言、服薬変更もあったことで徐々に落ち着いて過ごすことができている。利用者間のトラブルも多く見られたため、会議にて職員の見守りの配置変更や環境整備を行った。

### 第6. 職員研修

	研修テーマ	参加者（人数）
外部研修	相談支援従事者初任者研修 サービス管理責任者基礎研修	1
	岡山県虐待防止・権利擁護研修	2
	虐待対応力向上研修	1



# ワークスひるぜん

## 就労継続支援B型・日中一時支援

### 第1. 利用者概要（令和6年3月31日時点）

#### 1. 区分・男女別 平均障害支援区分：2.6（小数点第2位切り捨て）

（人）	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	区分なし	非該当	計
男性	1	0	2	5	2	0	1	1	12
女性	0	0	4	4	1	0	3	0	12
計	1	0	6	9	3	0	4	1	24

#### 2. 年齢・男女別 平均年齢：54.6歳（最年少：28歳、最高齢：94歳）（小数点第2位切り捨て）

（人）	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
男性	1	2	2	2	2	1	2	12
女性	0	2	2	4	3	1	0	12
計	1	4	4	6	5	2	2	24

#### 3. 入退所の状況

（人）	新規利用	退所	退所理由
就労継続支援B型	2	1	在宅生活へ

### 第2. 作業内容

- ・室内班：ペットフードの袋詰め
- ・製麺班：麺の製造、販売

### 第3. 職員配置（令和6年3月31日時点）

（人）	施設長 管理者	サービス 管理責任者	生活支援員	職業指導員	目標工賃 達成指導員	計
常勤換算	1	1 (管理者兼務)	2.2	1.1	1	5.3 (管理者兼務を除く)

#### 第4. 運営方針・重点課題への取り組み

##### 1. 利用者の人権を尊重し、個々の特性に合わせた援助実践に努める

- ・ケース会議を定期的に開催し、利用者個々の障害特性や高齢化に伴う変化等を職員間で共有し、利用者個々に合わせた実践につなげた。また、他事業所とも連絡帳等を活用しながら情報を共有し連携を図った。その他、必要に応じて他事業所の職員や家族と直接連絡をとり合い、利用者自身を取り巻く方々と連携しながら支援に取り組んだ。

##### 2. 利用者が目標を持って作業に取り組めるよう、また達成感や働きがいを感じられるような作業環境を提供する

- ・企業の協力を得て種類を絞った形での作業提供を行うことで工程を細分化することができ、利用者の特性に合わせた作業を提供することができている。そのことで利用者は決まった作業に携わることができ、作業工程を理解し覚えやすくなった。また、毎月の給料支給時には利用者で当月の振り返りを行い評価することで、達成感や働きがいを感じることに繋がった。

##### 3. 利用者との関わりを大切にし、利用者が何を求めているかどのような支援が必要なのか、職員全員で検討する

- ・日々の利用者の状況把握を行うため、朝の通所時の挨拶を大切にされた。挨拶から利用者の変化やその日の様子を把握することができ、その情報を作業担当者へ伝えることで連携を取りながら実践することができた。ケース会議以外でも毎月の事業所会議において変化がみられたケースに関して情報共有を行い、統一した実践に努めた。

##### 4. 利用者一人ひとりに寄り添ったチーム実践を行う

- ・作業中心の実践となるため、休憩時間や昼食時、送迎時等に利用者と一緒に積極的に会話し、作業以外での関わりも意識した。そこでの会話やその時の様子は記録に残して朝礼で共有することで、職員全体で共通理解した上で実践に取り組むことができた。

#### 第5. 月額平均工賃

- ・45,859円

#### 第6. リスクマネジメントの取り組み

(件)	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット報告
件数	0	2	10
県への報告件数	0	0	

##### 1. 苦情：なし

##### 2. 事故報告

###### (1) 特徴と改善策

###### ①県への報告事例：なし

###### ②その他の事故の特徴

- ・2件とも作業に関する報告であった。機械スイッチの劣化による破損、計量機を机から落として破損したという破損事故であった。

⇒（改善策）日常的に使用している機械については、劣化等の異常を早期に発見・対応できるように日々のチェック項目に追加し、管理を行った。また、作業する机に物や人が当たらないよう環境整備も行った。

### 3. ヒヤリ・ハット報告の特徴

- ・作業に関する報告が多く、印字関連、異物混入、圧着不良、出荷時の段ボールのテープの止め忘れというものであった。報告があるたびに、毎回必ず作業手順の再確認を職員全体で行った。その他、転倒の報告もあり、安全に作業ができるよう環境整備を行った。

## 第7. 職員研修

	研修テーマ	参加者（人）
外部研修	中国・四国知的障害関係職員研修競技会岡山大会	1
	安全運転管理者等法定講習	1
	相談支援従事者初任者研修 サービス管理責任者基礎研修	1
	障がい者の就労における意見交換及び交流会	1
	岡山県障害者権利擁護セミナー	1
	岡山県障害者虐待防止・権利擁護研修	1
	全国知的障害福祉関係職員研修会	1
	「意思決定支援について」自身の支援の振り返り	7
事業所内研修	ヤングケアラー研修会	1

# グループハウスひるぜん

## 共同生活援助

### 第1. 利用者概要（令和6年3月31日時点）

#### 1. 区分・男女別 平均障害支援区分：2.9（小数点第2位切り捨て）

（人）	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	非該当	計
男性	0	0	3	4	5	0	0	12
女性	0	0	3	5	0	1	0	9
計	0	0	6	9	5	1	0	21

#### 2. 年齢・男女別平均年齢：38.5歳（最年少：21歳、最高齢：62歳）（小数点第2位切り捨て）

（人）	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
男性	3	4	4	0	1	0	0	12
女性	2	3	2	2	0	0	0	9
計	5	7	6	2	1	0	0	21

#### 3. 入退所の状況

（人）	新規利用	退所	退所理由
共同生活援助	1	1	本人、家族の意向により自宅へ帰る

### 第2. 職員配置（令和6年3月31日時点）

（人）	施設長 管理者	サービス 管理責任者	看護師	生活支援員	世話人	計
常勤換算	1	0.8	0.2	2.4 （管理者兼務）	5.3	8.7 （管理者兼務を除く）

### 第3. 運営方針・重点課題への取り組み

#### 1. 個人の悩みに真摯に向き合うことで課題を整理し、解決に向けて利用者と共に考える

- ・抱えている悩みを聞き取り、解決に向けてどうしていくかを本人と一緒に考え、生活スケジュールを組み立てるなどの取り組みを行った。継続して取り組みができないことも多かったが、その都度一緒に振り返りを行い、本人が課題解決や目標に向かって進むための伴走者となれるよう利用者と真摯に向き合った。

#### 2. 利用者一人ひとりが、将来の生活や夢を描けるような機会を提供する

- ・週末の余暇活動ではコンサート鑑賞や利用者旅行（いちご狩りや採蜜体験など）、事業所内で行っていた映画会を映画館に観に行くなど、様々な経験・体験を積むことができた。その他、調理実習では職員主導ではなく利用者が主体となり取り組んだ。このように様々な体験を通して、利用者のやりたい事の選択肢の幅を広げることにつながった。

#### 3. 様々な活動を通して経験を重ねることで、生活をより充実させる

- ・休日が充実するよう余暇活動を提供し、休日を楽しみに平日は仕事を頑張るというメリハリのある生活が送れるよう支援した。余暇活動の一つである買い物外出は、作業を頑張ることで得られることがたくさんあるという働くことへの意識付けと、作業意欲の向上につながった。

#### 4. 利用者の障害特性・性格・経験等を様々な情報を基に把握し、一人ひとりに合った実践につなげる

- ・毎月ケース会議を行い、既往歴を把握した上で本人の現状の再確認と課題に対しての対応を検討し実践に取り組んだ。ケース会議は事業所内だけでなく、日中事業所・支援センターなどの他事業所も交えて開催したものもあり、多様な視点から検討することができた。また、対象利用者に係る職員全員で支援の方向性を統一することができた。

#### 5. 職員間のコミュニケーションを大切にし、連携した支援を行う

- ・変則勤務のある中ではあるが勤務者全員が参加する朝礼を行い、その日の動きや利用者の引継ぎを細目に確認した。また、次の日への引継ぎをパソコンに入力する事で統一し、確認する場所を一ヶ所にすることでスムーズに動けるようになった。利用者支援において担当任せにならないよう他職員の利用者についても把握し、チームとして支援を行った。

### 第4. リスクマネジメントの取り組み

(件)	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット
件数	0	2	3
県への報告件数	0	0	

#### 1. 苦情：なし

#### 2. 事故報告

##### (1) 特徴と改善策

- ①県への報告事例：なし

## ②その他の事故の特徴

- ・内服薬関連（増薬となったが以前の錠数のまま準備し投薬してしまった）、事務処理関連（口座引き落としへ変更となったが、現金でも重複支払いをしてしまった）、の報告であった。  
⇒（改善策）それぞれ確認不足が原因であり、まずは変更の有無をしっかり確認してから取りかかることを再確認した。また、確認しやすいよう内服一覧表の作成や、口座引き落としと現金支払いのものを事務職員と再確認するなど、整備を行った。

## 3. ヒヤリ・ハットの特徴

- ・送迎に関することが多かった。送迎体制の変更に伴う送迎忘れ、乗車人数超過となり車に乗りきらなかったという報告などがあった。いずれもすぐに気付き、対応を行った。変更を把握できていなかったことも要因であったため、変更になった際の周知方法と確認方法を職員全員で検討し徹底した。

## 第5. 職員研修

	研修テーマ	参加者（人数）
外部研修	グループホームの現状や課題、将来について	1
	軽度・触法障害者の地域生活支援のあり方を考える	1
	一人一人の意思を紡いで彩のある風景を～ 障害者権利条約と真摯に向き合う～	2
	衛生推進者養成講習	1
	福祉有償運送運転講習	2
	岡山県障害者権利擁護セミナー	1
	岡山県障害者虐待防止・権利擁護研修	2
事業所内研修	人権委員主催の人権会議（定期的）	5

# ワークスくらよし

## 就労継続支援B型

### 第1. 利用者概要（令和6年3月31日時点）

#### 1. 区分・男女別 平均障害支援区分：0.9（小数点第2位切り捨て）

（人）	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	区分なし	非該当	計
男性	0	0	1	2	6	1	18	0	28
女性	0	0	2	3	2	0	9	1	17
計	0	0	3	5	8	1	27	1	45

#### 2. 年齢・男女別 平均年齢：39.2歳（最年少：20歳、最高齢：71歳）（小数点第2位切り捨て）

（人）	19～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
男性	9	7	4	4	3	1	0	28
女性	5	7	2	2	1	0	0	17
計	14	14	6	6	4	1	0	45

#### 3. 入退所の状況

（人）	新規利用	退所	退所理由
就労継続支援B型	14	4	A型へ移行（1）、体調不良（3）

### 第2. 作業内容

- ・ワークスくらよし：ペットフードの袋詰め、弁当作業
- ・ワークスふくよし：ペットフードの袋詰め

### 第3. 職員配置（令和6年3月31日時点）

（人）	施設長 管理者	サービス 管理責任者	生活支援員	職業指導員	目標工賃 達成指導員	計
常勤換算	1	1	4	2.5 (管理者兼務)	1	8.5 (管理者兼務を除く)

#### 第4. 運営方針・重点課題への取り組み

##### 1. 利用者が「利用して良かった」と思えるように、実践力の向上に取り組む

- ・毎月ケース会議を開催し、まずは利用者を理解することから始めた。改めて職員全員で障害について学ぶことで特性を理解でき、統一した実践に取り組むことにつながった。また、自分が主となってケース会議を開催することはもちろん、参加することも初めての職員もあり、ケース会議の基本を学ぶ良い機会にもなった。

##### 2. 挨拶と掃除を徹底することで、利用者・職員共に働きやすい環境作りを行う

- ・まずは職員間で目を見て笑顔での挨拶を心がけ、利用者へも広げていった。また、気持ちよく1日のスタートを切れるよう、気持ちよく利用者を迎えることができるよう、職員は毎朝事業所内の掃除を行ってから始業を開始し、利用者は毎日の作業終わりに各担当箇所の清掃に取り組んだ。毎週金曜日は職員によるトイレ掃除を行い、利用者だけでは不十分な箇所の掃除を行い、職員と利用者で協力しながら気持ちよく働きやすい環境作りに努めた。

##### 3. 日中支援（作業）を充実させるために必要な作業を確保し、安定的な作業提供を行う

- ・就労調整部と調整を行い、安定した作業提供を行うことができた。作業事故発生時には事業所内での検討だけでなく就労調整部にも入ってもらい、対策・改善策を検討し徹底した。また、作業事故が利用者の作業を奪うことにもつながることを職員全員で再確認し、再発防止を徹底した。

##### 4. コミュニケーションが取りやすく相談しやすい環境を整えることで従業員満足につなげ、さらには利用者満足につなげる

- ・朝礼、昼礼を行い、作業の進捗状況の共有だけでなく利用者の状況についても共有する場とした。朝礼・昼礼で実践上の小さな不安や困りごとタイムリーに相談・共有することで、一人ではなく職員皆で実践を行っていることを実感できるとともに、統一した実践を行うことで利用者へのより良い実践につなげることができた。

#### 第5. 月額平均工賃

- ・56,186円

#### 第6. リスクマネジメントの取り組み

(件)	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット報告
件数	0	14	20
県への報告件数	0	2	

##### 1. 苦情：なし



## 2. 事故報告

### (1) 特徴と改善策

#### ①県への報告事例の特記事項

##### 【怪我（鼻骨骨折）を伴う利用者同士のトラブル】

⇒（状況と改善策）両者が不調のため作業を早退し、帰宅するために事業所を出てからのトラブルであった。女性利用者の行動が発端となり男性利用者が女性利用者に手を挙げてしまい受傷。女性利用者は鼻出血と疼痛があり医療機関を受診し、鼻骨骨折と診断を受けた。医療機関からは経過観察または手術を提案され、本人が手術を希望され入院により鼻骨骨折整復術を受けられた。両者へは職員とともに、それぞれの行動の振り返りを行い、男性利用者はかかりつけの精神科へも受診し、衝動性のコントロールについての助言も受けた。今後は不調で早退する際には職員が事業所で話を聞いて落ち着いてから帰宅してもらう、早退する場合は一緒のタイミングにならないよう時間をずらす等、本人達とも相談して対応を決定した。この事故発生以降、両者はトラブルなく過ごしている。なお、この件に関しては、怪我を負った女性利用者の保護者の強い意向もあり、警察への届け出はしないこととなった。

・その他、作業中の切創の報告であった。

#### ②その他の事故の特徴

・作業に関する報告（印字ミス、圧着不良、入り数間違い）が大半であった。

⇒（改善策）職員全員で事故の状況について共有し注意喚起を行った。また、事業所内だけでなく就労調整部にも入ってもらい、作業チェックシートを作成し確認の徹底を図った。同じ作業で連続して事故が発生したこともあり、先方へ出向き再検品の対応を行ったこともあった。

## 3. ヒヤリ・ハットの特徴

・作業に関する報告の中でも数間違い（出荷数、入数間違い）が最も多かった。その他、圧着不良、異物混入、シールの貼り忘れ等であった。いずれも出荷前に気付き、対応することができた。就労調整部の協力も得て、確認方法の見直しと決められた手順の遵守の徹底を図った。

## 第7. 職員研修

	研修テーマ	参加者（人数）
外部研修	相談支援従事者初任者研修	1
	サービス管理責任者等実践研修	1
	福祉サービス苦情解決事業研修	1
	障害者虐待防止等研修	1
	知的障害関係職員研修	1
	苦情受付担当者研修会	1

# 川上児童クラブ

## 放課後児童健全育成事業・日中一時支援

### 第1. 登録児童概要（令和6年3月31日時点）

#### ・学年別

(人)	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
児童数	6	5	12	2	3	2	30

### 第2. 開所日数

#### ・開所日数と1日の開所時間

	平日	土曜日	長期休暇	計
日数	200日	40日	39日	279日
時間数	3.5時間	10.5時間	10.5時間	

#### ・月別開所日数

(日)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計	24	23	25	25	20	24	22	24	24	24	22	22	279

### 第3. 運営方針・重点課題への取り組み

#### 1. 職員一人ひとりが自分の業務を遂行するため、役割分担を明確にしていく

- ・計画的に取り組めるよう、日々の業務だけでなく月ごとでの役割分担予定表を作成し、進捗状況を全体で把握できるようにした。そうすることで、一人では間に合わないところについて全体で共有でき、声を掛け合いながら複数で取り組むことができた。

#### 2. 児童が社会性、集団性を習得できるよう、季節感を感じられる行事等の取り組みを実施する

- ・今年度も季節ごとの行事を開催したが、毎年行っている行事になるためマンネリ化しないよう新しいアイデアを出し合い、児童からの意見も取り入れながら企画した。縦割りグループを作り、高学年がリードしながら低学年が役割を覚えられるよう取り組んだ。

#### 3. 研修に参加する機会を設け、専門知識の向上を図り実践力の向上につなげる

- ・放課後児童支援員研修に参加し資格を取得した。その他、外部研修で得たことは会議にて報告し知識の共有を行った。

#### 第4. リスクマネジメントの取り組み

(件)	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット報告
件数	0	0	2
県への報告件数	0	0	

1. 苦情：なし

2. 事故報告：なし

#### 3. ヒヤリ・ハットの特徴

- ・電気の消し忘れ、玩具が壊れたままで使用されていたということがあった。指導員の確認不足によるものであり、会議にて注意喚起を行った。

#### 第6. 職員研修

	研修テーマ	参加者（人数）
外部研修	全国学童保育指導員学校（オンライン）	3
	放課後児童支援員養成研修	1
	真庭市連協指導員研修	1
	岡山県虐待防止・権利擁護研修	1

## デイセンターまにわ

### 生活介護・日中一時支援・就労継続支援A型

#### 第1. 利用者概要（令和6年3月31日時点）

##### 1. 区分・男女別（生活介護） 平均障害支援区分：4.0（小数点第2位切り捨て）

（人）	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	非該当	計
男性	2	1	4	3	0	0	0	10
女性	0	2	3	3	0	0	0	8
計	2	3	7	6	0	0	0	18

##### 2. 年齢・男女別

###### （1）生活介護平均年齢：35.5歳（最年少：23歳、最高齢：51歳）（小数点第2位切り捨て）

（人）	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
男性	2	5	3	0	0	0	0	10
女性	3	2	2	1	0	0	0	8
計	5	7	5	1	0	0	0	18

###### （2）就労継続支援A型

###### 平均年齢：45.2歳（最年少：21歳、最高齢：59歳）（小数点第2位切り捨て）

（人）	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
男性	1	0	1	2	0	0	0	4
女性	0	0	0	1	0	0	0	1
計	1	0	1	3	0	0	0	5

##### 3. 入退所の状況

（人）	新規利用	退所	退所理由
生活介護	0	0	
就労継続支援A型	0	2	一般就労（2）

## 第2. 作業内容

- ・生活介護：ペットフードの箱詰め
- ・就労継続支援A型：ペットフード原料製造、弁当作業・デザート提供

## 第3. 職員配置（令和6年3月31日時点）

### （1）生活介護

（人）	施設長 管理者	サービス管理 責任者	看護師	支援員	計
常勤換算	1	1	0.2	7.6	9.8

### （2）就労継続支援A型

（人）	施設長 管理者	サービス 管理責任者	生活支援員	職業指導員	計
常勤換算	1 (生活介護兼務)	1 (生活介護兼務)	0.1	1	1.1 (生活介護兼務を除く)

## 第4. 運営方針・重点課題への取り組み

### 1. 利用者一人ひとりに合った支援を行うため、援助実践の充実と質の向上を図る

- ・まずは早急に対応が必要な利用者を選定し、その利用者に必要な実践をケース会議で検討した。その一例として、十分に咀嚼しないため喉詰めの危険性が高い利用者へ対して原因を探り、皆で色々な方法を検討した結果、細かく仕切られた補助食器へ変更することで飲み込んでから次のマスを食べるようになり、一度にかきこまず喉詰めのリスクを減らすことができた。その他、他害行為や不調が頻発している利用者について原因を探った結果、自宅での内服管理が十分できていないことが分かった。かかりつけの医療機関へも相談し、医師の了解と保護者の同意を得て、通所している時間帯の中で朝・昼・夕の内服を行った。その結果、他害行為や不調が激減した。このように、一人ひとりが直面している課題にしっかりと向き合い、職員全員で検討・実践することで事業所全体の実践の質の向上にもつながった。

### 2. 一人ひとりのニーズに合った作業・活動を提供する

- ・各ケース担当者が中心となり、一人ひとりのニーズと一人ひとりに合った作業方法や活動内容の再点検を行った。検討した内容は全職員へ周知し、統一した実践に取り組んだ。作業方法や活動内容を変更したことで意欲的に取り組むなど変化のあった利用者もあったが、あまり意欲的ではない利用者もあったため、今後も継続的に働きかけや検討を行っていく。

### 3. 困りごとをタイムリーに共有できる体制作りを行う

- ・何か問題が起こった際には一人で抱え込まず、必ず日々の指揮者へ報告・相談を行った。指揮者が情報を集約し、責任を持って職員へ必要事項の口頭伝達とホワイトボードを活用しての周知を行った。必要があれば関係機関とも情報共有し、早期対応を行った。確実な口頭伝達と事務所に入ると目に入るホワイトボードに提示することで、タイムリーな情報共有につながった。その他、会議で検討された内容は会議録を職員全員が回覧し、確実に共有することができた。

## 第5. リスクマネジメントの取り組み

(件)	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット報告
件数	0	9	24
県への報告件数	0	0	

### 1. 苦情：なし

### 2. 事故報告

#### (1) 特徴と改善策

①県への報告事例：なし

②その他の事故の特徴

- ・車両事故が3件と最も多かった。その他、手動のシュレッターを活動に取り入れている方の袖がシュレッターに引っかかり破れてしまったという事例などであり、職員の危機管理不足が原因であった。袖が破れてしまった利用者保護者へ状況説明と謝罪を行い、納得された。
- ⇒（改善策）どの報告も確認不足が共通の原因として挙げられているため、十分な確認を行うことを周知・徹底した。また、発生した事例に関して全職員へ周知し、起こったこと・今後も起こり得ることを十分に認識したうえで利用者実践を行うことを徹底した。

### 3. ヒヤリ・ハットの特徴

- ・作業（ペットフード、弁当）に関することが多かったが、早期の発見により出荷前に対応することができた。出荷前の確認が徹底できている成果であるとともに、今後も確認を徹底することを会議にて共有した。

## 第6. 職員研修

	研修テーマ	参加者（人数）
外部研修	サービス管理責任者実践研修	1
	強度行動障害支援者養成研修	1
	岡山県障害者権利擁護セミナー研修	1

# グループハウスおちあい

## 共同生活援助

### 第1. 利用者概要（令和6年3月31日時点）

#### 1. 区分・男女別 平均障害支援区分： 2. 0（小数点第2位切り捨て）

(人)	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	非該当	計
男性	0	0	0	2	1	0	1	4
女性	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	2	1	0	1	4

#### 2. 年齢・男女別平均年齢： 48. 7歳（最年少： 39歳、最高齢： 65歳）（小数点第2位切り捨て）

(人)	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳~	合計
男性	0	1	2	0	1	0	0	4
女性	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	1	2	0	1	0	0	4

#### 3. 入退所の状況

(人)	新規利用	退所	退所理由
共同生活援助	0	0	

### 第2. 職員配置（令和6年3月31日時点）

(人)	施設長 管理者	サービス 管理責任者	生活支援員	世話人	計
常勤換算	1	1	0. 2	0. 9	3. 1

### 第3. 運営方針・重点課題への取り組み

#### 1. 魅力あるグループホーム作りを行う

- ・利用者は毎日の世話人が準備する温かい手料理を楽しみにされている。誕生日には利用者からのリクエストにも応えており、「何を願いましょうか」と考えることも楽しみの一つとなっている。このように、グループホームは利用者の家という感覚を大切にし、楽しみをもった生活につなげることができた。

#### 2. 利用者一人ひとりが自分の生活について自分で考え、行動できるよう支援する

- ・それぞれの目標に向けて自分でできることを明確にし、スモールステップでの取り組みを利用者と一緒に考え実践した。そうすることで、一歩ずつ前進することができた。しかし中には今までの自分の生活を変えることができず、整理整頓ができていない部屋で生活を続けている利用者もあり、今後も継続的な働きかけが必要である。

#### 3. 利用者が暮らしやすい環境作りを行う

- ・共同で使用する場所の掃除当番を決めることで、責任感を持って自分の持ち場を掃除するという意識付けができた。また、一斉清掃の際には個々の居室を中心に掃除を行ってもらい、ホーム全体がきれいで生活しやすい環境となった。

### 第4. リスクマネジメントの取り組み

(件)	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット
件数	0	1	0
県への報告件数	0	0	

#### 1. 苦情：なし

#### 2. 事故報告

##### (1) 特徴と改善策

①県への報告事例：なし

②その他の事故の特徴

- ・朝食後に間違えて夕食後薬を渡して内服してしまった。夕食後薬を投与する際に夕食後薬が無いことに気付き、発覚した。

⇒(改善策)確認不足が原因であり、与薬前には名前と朝・昼・夕の表記もしっかり確認することを周知した。

#### 3. ヒヤリ・ハット報告：なし



## ワークプレイスマにわ

### 就労継続支援B型

#### 第1. 利用者概要（令和6年3月31日時点）

##### 1. 区分・男女別 平均障害支援区分：0.6（小数点第2位切り捨て）

（人）	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	区分なし	非該当	計
男性	0	1	1	3	0	18	1	24
女性	0	1	1	3	0	16	0	21
計	0	2	2	6	0	34	1	45

##### 2. 年齢・男女別平均年齢：44.7歳（最年少：18歳、最高齢：67歳）（小数点第2位切り捨て）

（人）	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	計
男性	7	2	6	4	5	0	0	24
女性	1	7	6	3	4	0	0	21
計	8	9	12	7	9	0	0	45

##### 3. 入退所の状況

（人）	新規利用	退所	退所理由
就労継続支援B型	15	7	一般就労（1）、他のB型事業所へ（6）

#### 第2. 作業内容

- ・ワークプレイスマにわ：ペットフードの袋詰め、箱詰め
- ・ワークプレイスマつやま：ペット用ボディータオルの製造

#### 第3. 職員配置（令和6年3月31日時点）

	施設長 管理者	サービス 管理責任者	生活支援員	職業指導員	目標工賃 達成指導員	計
常勤換算	1	1	4.6	1.6	1	9.2

#### 第4. 運営方針・重点課題への取り組み

##### 1. 一人ひとりに寄り添った援助実践を行う

- ・しっかりと利用者と向き合い、困り事や心配事を話してもらえるよう面談の時間を確保した。必要時、他機関とも面談内容の情報共有も行った。また、事業所内で対応できることについてはタイムリーに職員間で情報共有と検討を行い、スピーディーな実践につなげることができた。その他、定期的なケース会議も開催し、個々の特性や能力、利用者同士の相性にも配慮した作業環境の整備を行った。精神的な事情から長期にわたって通所できていない利用者であっても、通所を再開したいという思いを持っている方については契約を継続し、継続的なアプローチと状況把握を行った。

##### 2. 真庭地域外の支援センター等の関連機関との関係構築に努め、真庭地域外の利用者ニーズも受け止める

- ・事業所だけではつかみ切れないニーズを把握するため、支援センターなどの関係機関と連携を図り情報収集を行った。昨年度から真庭市以外の支援センターとも積極的に連携してきたことで、従たる事業所（ワークプレイスつやま）の利用者も増加し、少しずつ真庭地域以外の利用者ニーズも受け止める事にもつながった。

##### 3. コミュニケーション良好な職場環境作りを行い、職員満足度と利用者満足につなげる

- ・毎日ミーティングを行うことで、情報共有や共通認識を持って実践を行うことができた。また、ミーティングにてコミュニケーションを図ることで職員全体が発言しやすい環境となり、職員の困り事や心配事をみんなで共有し、みんなで解決策を検討することができた。職員間で良好なコミュニケーションを図ることで職員の気持ちにも余裕もでき、余裕を持って利用者に関わる事にもつながった。

#### 第5. 月額平均工賃

- ・ 47,286円

#### 第6. リスクマネジメントの取り組み

(件)	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット報告
件数	0	2	10
県への報告件数	0	0	

##### 1. 苦情：なし

##### 2. 事故報告

###### (1) 特徴と改善策

###### ① 県への報告事例：なし

###### ② その他の事故の特徴

- ・ 車両事故と作業に関する報告（日付印字間違いがあり、5,600袋入れ替えを行った）であった。

⇒（改善策）２件とも確認不足が原因であり、確認を行うことを徹底した。また、印字間違いについては、日報の包装工程チェック表の確認を怠ったこと、作業手順が守られていなかったことも原因であり、もう一度決められたルールを遵守するよう周知・徹底を行った。

### 3. ヒヤリ・ハットの特徴

- ・印字不良、印字なし、タンクのホースが抜けていた、引継ぎ不足等、作業に関する報告が大半であった。原因としては確認不足はもちろん、報・連・相ができていないことが挙げられた。しっかりとコミュニケーションをとり、情報共有しながら全員で確認し合っていくことを再確認した。

## 第7. 職員研修

	研修テーマ	参加者（人数）
外部研修	岡山県工賃向上計画研修	1
	就労定着支援研修	1
	強度行動障害支援者研修	1
	依存症研修	1
	人権侵害・虐待研修	1

## 真庭地域生活支援センター

### 一般相談支援・特定相談支援・障害児相談支援

#### 第1. 事業概要（令和6年3月31日時点）

##### 1. 相談支援利用人数

・相談支援を利用された障害者等の人数

	実人数	身体 障害	重症心身 障害	知的 障害	精神 障害	発達 障害	高次脳 機能障害	その他	計
障害者 (新規利用者数)	310 (22)	46 (0)	11 (0)	182 (9)	74 (9)	33 (4)	2 (0)	15 (0)	673
障害児 (新規利用者数)	69 (13)	3 (0)	2 (0)	30 (4)	1 (0)	37 (8)	0 (0)	4 (1)	146
計	379	49	13	212	75	70	2	19	819

##### 2. 特定相談支援

・サービス等利用計画作成件数（新規・更新作成）

	真庭市	新庄村	岡山県内 (真庭市外)	岡山県外	計
障害者	128	6	23	8	165
障害児	56	0	0	0	56
計	184	6	23	8	221

・継続サービス等利用支援作成件数（モニタリング）

	真庭市	新庄村	岡山県内 (真庭市外)	岡山県外	計
障害者	373	8	43	16	440
障害児	119	1	0	0	120
計	492	9	43	16	560

## 第2. 相談方法別の件数

訪問	来所	同行	電話 メール	個別支援 会議	連絡調整	その他	計
728	283	86	1,709	130	2,051	22	5,009

## 第3. 支援内容件数（総件数11,108件）

福祉サービス利用	不安の解消・精神安定	家族関係・人間関係	健康・医療	
3,268	1,755	1,265	1,625	
生活技術	保育・教育	家計・経済	就労	
1,222	556	176	170	
障害者症状の理解	成年後見利用支援事業	社会参加余暇活動	権利擁護	その他
175	68	151	18	659

## 第4. 運営方針・重点課題への取り組み

1. **利用者の立場になり、自身が受けたい福祉サービスの紹介や制度に関する助言や調整をタイムリーに行い、専門性の発揮に努める**
  - ・職員全員が利用者の自己決定を大切にするという共通認識を持ちながら支援を行った。利用者がより理解しやすいよう分かりやすい説明を心がけ、自己決定されたサービスをスムーズに受けられるよう専門性を活かして関連機関との連携・調整を行った。
2. **利用者が受ける福祉サービスがよりよいものとなるよう、福祉事業所や専門機関との連携を図る**
  - ・利用者一人ひとりの課題や現場が抱えている課題を整理し、事業所と連携しながらよりよい実践につなげた。事業所と医療機関との仲介役を務め、医療機関・事業所との連携や情報共有を行うことで、より質の高い実践の提供に寄与することができた。また、事業所のケース会議にも積極的に参加し、タイムリーな情報共有と支援の統一化を図った。
3. **報告・連絡・相談を速やかに行い、職員間のコミュニケーションを図りやすくする**
  - ・毎朝の申し送りでの報・連・相を徹底し、進捗状況の報告だけでなく、つまづきや困り事の共有を行った。全員で各職員の現状を共有しておくことで、お互いに適宜、情報提供やアドバイスができ、円滑な業務進行につながった。
4. **挨拶を徹底することで、コミュニケーションがとりやすい気持ちの良い環境作りに取り組む**
  - ・来所された方が笑顔になれるよう、笑顔での挨拶を徹底した。事業所を訪問した際も、利用者へはもちろん職員へも積極的に声を掛けることを意識し、話しやすい・相談しやすい雰囲気作りを努めた。

### 第5. リスクマネジメントの取り組み

(件)	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット報告
件数	0	0	0
県への報告件数	0	0	

1. 苦情：なし

2. 事故報告：なし

3. ヒヤリ・ハット報告：なし

### 第6. 職員研修

	研修テーマ	参加者（人数）
外部研修	相談支援専門員現任者研修	1
	依存症セミナー	2
	岡山県アルコール（依存症）研究会	3
	子供の心の診療ネットワーク事業（3回）	3
事業所内研修	防災について（DVD）	4

## 法人本部

### 理事長室

#### 第1. 運営方針・重点課題

1. 円滑な法人運営に向けて、地域、外部（行政、業者、学校、支援センター、障害者就業・生活支援センター等）との連絡・交渉・調整等を行う
  - ・今後の法人運営に向けて、倉吉市体育施設等指定管理者に応募したが、落選となってしまった。事業としても初めての応募であり手探りの状況であったが、情報収集、その他調整等の不十分さの結果であった。今回の経験を糧に、今後の法人運営に関わる事業を模索し、円滑な法人運営につなげていきたい。
2. 障害のある方の夢の実現に向けて、スポーツ推進応援団の活動を充実させる
  - ・日々の練習、食事等のサポートを行った。
  - ・川口梨央選手が2023年10月に行われた、杭州アジアパラ競技大会に女子T20（知的障害クラス）走幅跳びに出場し、自己ベスト5.32mを跳躍、銀メダルを獲得した。

## 事業所統括推進室

#### 第1. 運営方針・重点課題

1. 円滑な事業所運営となるよう情報収集と共有、調整を行い、円滑な法人運営につなげる
  - ・慶光園グループ（蒜山慶光園、グループハウスかわかみ、デイセンターひるぜん、川上児童クラブ）、ワークスグループ（ワークスひるぜん、グループハウスひるぜん、ワークスクらよし）、南部グループ（デイセンターまにわ、グループハウスおちあい、ワークプレイスマにわ、真庭地域生活支援センター）と法人内事業所を3つのグループに分けた会議を開催し、各事業所の状況把握に努めた。グループ会議での情報は経営委員会で共有し、検討・改善が必要な事項について各事業所へ提案を行った。グループホームの新規利用予定を計画通りに進めることに困難さがあったため関連事業所管理者と検討会を開催し、スケジュールを立てて進捗状況の確認と助言を行った。
2. 各事業所の困りごとをタイムリーに解決できるよう検討を行う
  - ・法人で検討が必要な事項については、経営委員会で対応の検討を行った。必要時、外部機関・他事業所とも調整を行い、各事業所の困りごとの解決が円滑な法人運営につながるよう努めた。

## 労働開発室

### 第1. 運営方針・重点課題

#### 1. 就労事業における新規事業の開拓を行い、円滑な法人運営につなげる

- ・展示会に参加し市場の動向についての情報収集や企業との連携・調整を行った。職員にも企業との情報交換や商談などを経験してもらうことで、人材育成にもつながった。令和5年度中にはまだ新規事業の導入までにはつながっていないが、新商品の提案も受けている。今後も引き続き開拓を行い、円滑な法人運営につなげていく。

#### 2. 新規作業の開拓を行うことで、より安定した作業確保に努める

- ・引き続き作業量の安定化を図ることができた。また、作業場の新築工場への移転に伴い、企業・現場職員と調整しながら配置や動線を考慮した作業環境の整備を行った。



## 部会

### 就労調整部会

#### 第1. 運営方針・重点課題

##### 1. 各事業所の作業調整を行う

- ・繁忙期等部員で事業所間の作業調整を行った。また、事業所へ出向き製造応援等を行った。

##### 2. 作業ミス等を防ぎ品質保持を図る

- ・同じ事故が短期間に繰り返し起こってしまったため、お客様の倉庫へ行き2日間再検品作業を行った。事業所とともに事故の改善策を検討し、日報やチェック項目の変更を行った。職員へは決められた手順の遵守や確認の徹底を行い再発防止に努めた。

### 実践検討部会

#### 第1. 運営方針・重点課題

##### 1. 各事業所で実施されたケース検討を共有し、課題や新たな取り組みについて検討する

- ・2ヶ月に1回の部会開催予定であったが、各事業所の進捗状況を把握するためにも毎月の開催を定例化した。毎月の部会を定例化したことにより、各事業所が意識的にケース会議に取り組みケース検討を進めることができた。事業所会議において検討されたことを具体的に実践で取り組むことで利用者に変化が見られ、職員が個々の利用者への支援を深く考えるようになってきている。また、会議に必要な資料整理、情報収集も職員の経験や力となってきている。

##### 2. 実践検討部会で検討された課題や新たな取り組みについて各事業所で実践し、援助実践の充実を図る

- ・部会では各事業所で検討されたケース内容について意見交換を行った。ケース検討された事例は事業所ごとに特性があり、施設内、グループホーム、在宅とケースは様々だったが、部会構成員で障害特性や環境、家族構成を含めた意見交換を行うことができた。参考になる意見については事業所へ持ち帰り再検討が行われ、実践検討部会での検討が各事業所の実践の質の向上につながった。

## 虐待防止部会

### 第1. 運営方針・重点課題

#### 1. 虐待防止のための啓発を行う

- ・虐待防止・身体拘束適正化研修を法人内部企画として実施した。
  - (1) 令和5年12月2日 南部グループ（デイセンターまにわ、グループハウスおちあい、ワークプレイスマにわ、真庭地域生活支援センター）  
「権利擁護の歩みと障害者虐待防止法（講義）、対等な関係づくりについて（グループワーク）」
  - (2) 令和6年1月13日 ワークスグループ（ワークスひるぜん、グループハウスひるぜん、ワークスクらよし、法人事務局）  
「権利擁護の歩みと障害者虐待防止法（講義）、意思決定支援について（グループワーク）」
  - (3) 令和6年3月2日、21日 慶光園グループ（蒜山慶光園、グループハウスかわかみ、デイセンターひるぜん、川上児童クラブ）  
「権利擁護の歩みと障害者虐待防止法（講義）、適切な関係性について（グループワーク）」
- ・令和6年1月、全職員を対象に「虐待防止セルフチェック」を実施した。集計結果は部会、CR委員会において分析、共有し、各事業所にフィードバックを行った。

#### 2. 虐待防止の視点を常に持ちながら、日々の現場実践に取り組む

- ・年間6回部会を開催した。各部員より事業所の現状を持ち寄り、意見交換を行った上で、各事業所への報告、フィードバックを行った。部員自らが人権意識を高め、権利擁護に関わる知識を深めること、他事業所の状況を知ることによって自事業所への取り組みを考えることにつながった。

# 事務局

## 1. 経理部

### 第1. 運営方針・重点課題

#### 1. 適切な経理業務、情報分析と発信を通じ、魅力ある法人作りに寄与する

- ・各事業所会計責任者、経理担当と連携し、経理業務を実施した。毎月の管理会議にて月次決算、四半期決算、事業所収入と稼働実績対比資料等、現状分析につながる情報提供を発信した。そのことにより、各事業所の数値目標管理と達成計画への取り組みにつなげることができた。

#### 2. 常に新しい視点を持ち、業務システムの適正化、効率化、最新化を推進する

- ・定期的に各事業所の経理担当等と確認し、合理化と事故防止の観点から必要箇所の業務見直しを進めた。事務処理事故の減少などの成果につながっている。インボイス制度等法改正に係る対応を、税理士等専門職の指導を仰ぎながら行った。

## 2. 総務課

### 第1. 運営方針・重点課題

#### 1. 各事業所との連携を密にし、合理的、効率的な事務業務を遂行する

- ・給付費請求業務、各種手続き業務、所轄庁への申請、労務管理業務への助言等を行った。

#### 2. 適切な法人運営のための総務業務を行う

- ・報酬改定など必要な情報収集と分析を行い、経営への提案、情報提供を行った。また、ホームページ等の媒体を活用し、必要な情報開示、情報提供に努めた。その他、法人規程の改定に合わせ、就業規則、付随規程の改定を行った。

## 3. 人事部

### 第1. 運営方針・重点課題

#### 1. 職員育成に取り組み、支援の質の向上を目指す

- ・新任職員へは業務の進捗状況の確認や振り返り、困り事の共有を主とした新任職員研修を開催、中堅職員へは各事業所の事業方針をもとにした課題を設定し、課題解決に向けて取り組むことを主としたリーダー育成研修を開催した。主任へはコミュニケーションやチームワークを学ぶための施設外研修や、法人の強み・弱み・機会・脅威を分析し、今年度の法人の事業方針を達成するための道筋を分析する研修、文章作成力向上のためのレポート作成に取り組んでもらった。各レベルでの研修開催が、法人が求めるそれぞれの役割を認識しながら日々の業務を遂行するきっかけとなった。

#### 2. 職員にとってより働きやすい環境となるよう、人材確保に努める

- ・令和5年度の新入職員にも協力してもらいながら、合同説明会・オンライン説明会・見学会対応を行った。その結果、令和6年度は2名の新卒入職者を迎えることができた。

## 公益事業

### 福祉有償運送

#### 第1. 運営方針・重点課題

##### 1. 安全・安心な運送を行う

- ・安全運転に心掛け、交通事故・交通違反はともになかった。

##### 2. 利用者のニーズに迅速に対応する

- ・各事業所に配置されている有償運送運転員にて運行を行い、迅速に対応することができた。
- ・資格取得の推進を行い、5名の職員が資格を取得した。

#### 第2. リスクマネジメントの取り組み

##### 1. 運行前車両点検を行う

- ・ライト、ウインカー、ブレーキランプ、車両の傷・へこみ等、運行前に点検を行った。
- ・タイヤの空気圧の目視確認を行った。

##### 2. 運行前、運行後のアルコールチェック・体調確認を行う

- ・アルコールチェッカーを使用してのアルコールチェックを行い、管理者または勤務者が数値の確認及び体調確認を行い運行した。

##### 3. 車両管理を徹底し、タイヤチェック、オイル交換等を適正に行う

- ・車両点検時にナットの緩みの確認を行った。
- ・毎月の車両点検時にオイル交換時期を確認し、適正に行うことができた。

##### 4. 安全運転の徹底を啓発する

- ・安全運転の注意喚起を随時行った。